

Shiho Tanaka
議会での
提言・要望



子どもを産み育てることに、安心と希望を持てる京都へ。
その思いで、子育て、教育、医療の課題に向き合ってきました。
出産への不安、外出のしにくさ、学校環境、いじめや不登校…
子育て世代の毎日にある声を、府政の場で一つひとつ届けています。

1 子連れで外出しやすい京都へ
子育て家庭の「外出しづらさ」を減らしたい



乳幼児家庭を支援する「外出応援キット」について、必要な家庭にしっかり届く周知の仕組みや、申請漏れを防ぐ工夫を求めました。あわせて、子育て世代の声を聞きながら、本当に役立つ内容にしていこうことの重要性も訴えました。

2 物だけでなく“出かけたくなる支援”を
必要なのはおむつだけじゃない。
“外に出よう”と思える支援を提案



支援の目的が「子ども連れでの外出の負担軽減」であるなら、育児用品だけでなく、親子で使える入園・入館チケットなども選べる仕組みにすべきと提案しました。家に届く支援だけでなく、親子の体験や外出の後押しにつながる支援を目指します。

3 子どもと一緒に出かけやすいまちづくり
ベビーケアルームの整備を、
もっと身近な地域にも



ベビーケアルーム整備への補助について、公共施設だけでなく、子育て世代が利用しやすい施設にも広げべきと提案しました。たとえば銭湯など、地域の身近な場所でも子連れで安心して過ごせる環境づくりを進めるよう求めました。

4 学校体育館に空調を
特別支援学校の
体育館の空調整備を着実に進める



近年の猛暑や災害時の避難所機能を踏まえ、学校体育館の空調整備は「快適さ」だけでなく「命を守る設備」でもあります。私は、モデル事業の成果をしっかり生かし、停電時にも対応できる形で着実に整備を進めるよう求めました。

5 学校トイレの洋式化
子どもたちに安心できる学校トイレを



府立学校のトイレ洋式化について、児童生徒が日常的に安心して使える環境整備を求めました。あわせて、学校全体の環境改善という視点から、教職員の働く環境にも配慮した整備の必要性を訴えました。

6 いじめ・不登校対策
いじめ・不登校支援に、もっと実効性ある支援を



いじめや不登校が増加する中、継続事業を続けるだけでなく、未然防止と早期対応をさらに強化すべきと求めました。子ども一人ひとりの声に寄り添い、専門家チームがより機動的に動ける体制づくりが必要です。

7 先生が働きやすい学校へ
現場の先生を支えることが、
子どもを支えることにつながる



初任者教員への支援体制や教職員の働き方改革について、現場の負担軽減と育成の両立を求めました。ベテランの知見の継承やICTの活用を進め、先生が安心して働き続けられる学校づくりを後押ししていきます。



2025年 12月定例会

田中しほ
代表質問

安心して産み、育てられる下京区へ
周産期支援体制の強化を訴えました。

現代の子育てを取り巻く課題は、年々複雑化・多様化しています。

出生数が減少する一方で、妊娠・出産への不安やキャリアとの両立、男性の産後うつ、LGBTQ+への理解など、人生の各段階で支援を必要とする課題が広がっています。

下京区の合計特殊出生率は、令和6年時点で0.82と、全国的にも非常に低い水準となっており、年々減少傾向が続いています。

子どもから高齢の方まで、すべての世代が地域で支え合いながら暮らしていくためにも、「安心して子どもを産み、育てられる環境整備」は極めて重要です。

私は、看護師としての現場経験も踏まえ、深刻で見えにくい「周産期支援体制」について、府議会代表質問で取り上げました。

Shiho's Topic 1

田中しほの
代表質問動画→

分娩施設の減少
「どこで産めばいいのか」という不安

京都市内でも分娩施設の減少が続き、「どこで産めばいいのか」という不安の声が寄せられています。

京都市内では

- ・福岡病院(下京区)……………閉院
- ・宮本産婦人科医院(右京区)……閉院
- ・森産婦人科医院(左京区)………分娩中止
- ・種田産婦人科(下京区)…………閉院
- ・南部産婦人科(下京区)…………分娩中止

など、分娩を担う医療機関が次々と姿を消しています。



これは京都市内だけの問題ではなく、
京都府全体の周産期医療体制が
大きく揺らぎ始めていることを示しています。



2025年 12月定例会

Shiho's Topic 2 周産期医療の現場で起きていること

これまで京都府では、京都大学病院や日本赤十字病院などの高度医療機関がハイリスク分娩を担い、地域の産婦人科が通常分娩を支える体制が維持されてきました。しかし現在は、出生数の減少に加え、産科医・助産師不足、NICU維持の困難化などにより、医療機関の経営環境が厳しさを増しています。

その結果、分娩取り扱いの中止や閉院が相次いでおり、私は強い危機感を持っています。



Shiho's Topic 3 京都府全体で支える周産期医療ネットワーク

京都府は南北に長く、地域による医療格差も課題です。

私は、周産期母子医療センターを核とした広域ネットワークや、ICT・医療DXを活用した情報共有体制の強化を進めるべきと提案しました。



Shiho's Topic 4 「安全に産める国」の裏側

また、日本は安全に出産できる国である一方、産婦の死亡原因の第1位は自死とされています。孤立や不安を抱える妊婦さんへの支援も重要です。

出産は「身体の安全」だけでなく、「心理的安全」や「尊厳あるケア」を含めて支えるべきものだと考えています。



Shiho's Topic 5 助産師による継続支援

京都府では、助産師主体の「院内助産」も始まっていますが、助産師不足により拡充は進みにくい状況です。

私は、国の支援も活用し、心理的安全性や継続的な助産師ケア、尊厳ある出産を支える体制の強化を提案しました。



安全な医療体制を守りながら、
安心して産み、育てられる京都へ。

これからも全力で取り組んでまいります。

田中しほ プロフィール

洛央小学校・下京中学校・日吉ヶ丘高校を卒業し
二人の子を夫と育てながら豊園学区に暮らしています

1994年下京区（豊園学区）生まれ（31歳）。京都カトリック信愛幼稚園、洛央小学校、下京中学校、日吉ヶ丘高等学校を経て進んだ京都府医師会看護専門学校の卒業後、新京都南病院に入職。集中治療室（ICU）看護師として勤務する一方、カンボジアの支援活動、地域こども食堂の運営に携わる。2022年11月に第一子、2024年5月に第二子を出産。2児のママの実感を政策の立案・提言に活かす。



もっと 子育てしやすい京都に！



5,000円相当の「外出応援キット」をお届けします！

おでかけエール

詳しくは
コチラ→



物価高騰が続く中でも、子育て中の皆さまに少しでも安心してお子さんとのおでかけを楽しんでいただけたよう、京都府では「外出応援キット」の申込がスタートしました。

外出時に「あると助かる」便利グッズを詰め込んだ、子育て世帯応援のための支援事業です。

私自身も府議会で予算審議に参加し、

- ・申請漏れが起きないような周知の徹底
- ・リトルベビーや障がいのあるお子さんなど、多様なご家庭でも使いやすい内容にすること
- ・“家に届くだけ”ではなく、“外に出たくなる支援”にしていこう

などを提案してまいりました。

対象となる皆さまは、ぜひお忘れなくお申し込みください。

また、「こんなものがあると助かる」「こういう支援がほしい」など、皆さまのお声もぜひお聞かせください。

対 象 ・0～2歳のお子さんがある世帯 ・妊娠届を提出された方

※申込時点で京都府内在住の方が対象 ※子ども1人につき1回申請可能（多胎児は人数分）

申込期間 2026年5月8日（金）～2027年1月31日（日）



子どもの入浴料金が無料に！



詳しくは
←コチラ

利用方法

- 1 銭湯にあるQRコードを読み取り
- 2 必要事項を入力（初回のみ簡単アンケート）
- 3 完了画面を番台で提示
- 4 子どもの入浴料が無料

京都府では、子どもたちに銭湯文化に親しんでもらい、地域の交流の場でもある銭湯を応援するため、小学生以下の子ども入浴料金を無料化する予算に賛成しました。

実施期間 令和8年4月1日～令和9年3月31日

対 象 18歳以上の大人と一緒に来た
小学生以下のお子さん
※人数制限なし ※京都府外の方も利用可能

対象の銭湯 京都府内の対象銭湯（京都市内77施設・京都市外7施設）



京都の銭湯を
未来へ

京都府内の銭湯は、15年間で約半数に減少しています。地域の大切な交流の場を守りながら、子どもたちに京都の銭湯文化をつないでいく取り組みです。是非ご家族みなさんでご利用ください